

株式会社清川組創業百周年法人改組六十周年記念
第24回清川グループ安全大会の挨拶

本日は、ご多用の中ご案内申し上げましたところ、多数の方々のご出席を賜りまして誠にありがとうございます。
例年は、7月上旬の安全週間に開催しておりました安全大会を、本日、創業百周年法人改組六十周年の記念大会として開催することと致しました。

さて、ここで弊社の百年の歩みを簡単に紹介致します。

弊社は、大正5年9月、初代清川清一が創業した太和舗道を祖業として本年をもって無事百周年を迎える事ができました。

戦前期は社員数名で現場混合の瀝青舗装や、コンクリート舗装を細々と施工するだけの個人零細企業でした。

戦後、二代目清川清蔵が軍隊から無事復員し、家業を広げて昭和31年6月に株式会社に改組いたしました。昭和34年に大阪支店を開設し、大阪市道の舗装新設工事を手がけて順調に経営を拡大してまいりました。

しかしながら、三代目清川正夫の時代には、経営近代化の立ち後れと赤字工事の頻発で経営が極度に悪化し、給料の遅配や手形のジャンプなど青息吐息の苦しい時期を経験いたしました。

このような状況を打開する為、昭和44年に四代目中川公男が就任し、不安定な建設受注を補うべく、遊休地を利用して賃貸集合住宅の建設を計画しました。昭和57年の大水害の復旧による葛下川改修に伴い、平成4年の本社ビル、新二番館の移転新築を経て、平成28年現在、清川二番館、三番館、五番館、六番館、七番館、片岡山荘と六棟290戸となり副業から第二の本業に成長いたしました。

そして昭和60年に五代目清川明が就任し、本業の建設業について、各部門の独立採算制を徹底するため、地域性や専門性を考慮して分社化を計画しました。

昭和50年に大阪市内において現在の明星建設を設立し、これを皮切りに昭和60年に清川組重機事業部を西和工事として分社、昭和61年大阪府松原市の菱田建設の営業権取得、平成12年には合材事業部を星陽開発として再分社し独立させました。また平成17年和歌山県橋本市の紀州興業の営業権取得、同年三重県伊賀市の日新舗装の営業権取得、平成24年同じく伊賀市の二幸建設の営業権も取得しました。

平成28年現在、清川組本社、大阪支店、堺営業所、三重営業所、生駒営業所、国分合材所、並びに子会社として明星建設、西和工事、星陽開

発、日新舗装、二幸建設、菱田建設、紀州興業の合計13拠点で建設業関連事業を推進しております。

つぎに特別プロジェクトとして平成18年12月より奈良県王寺町元町地区で宅地造成事業に参画しました。567区画の宅地開発をヤスダエンジニアリング株式会社と2社で事業組合方式で販売し、10年を経過して平成28年3月現在490区画の販売を完了し残り77区画となりました。当初はあまりに大きいプロジェクトで尻込みしましたが、金融機関の助言や地の利、人との出会いに恵まれて参加を決断し、後一息のところまでこぎ着ける事が出来ました。

このように100年の歴史を顧みまして、昭和40年前後の苦しい困難な時代を経験した事で、打たれ強い辛抱強い企業DNAを持てるようになりました。経営の近代化については、平成13年より国際標準規格のISOを導入し、現在は品質、労働安全、環境の認証を取得して全社的にISO活動を行っております。

平成22年より、わたくし、清川正明が六代目社長に就任しております。我々清川グループの特色は何かと常日頃自問しておりましたところ、平凡ですが協力業者、材料納入業者の方々と取引の付き合いが長い事に気づきました。協力業者の方では2代目3代目と引き継がれて40年以上我々の仕事をしてもらい、材料納入業者の方の中にも50年以上の長い取引実績があります。いわば親戚関係のようだと思っております。

それに加えて、最近特にうれしく思う事は、今までに会社を辞めた社員が6名も戻って来てくれた事です。この様な家族的人間関係をつくれた事が、私の仕事上の生き甲斐になっている事に気づかされました。

最後になりますが、我々清川グループも現在所属社員数97名の大所帯になりました。次の100年までは長すぎますが、自然災害や老朽インフラの更新と補修に対応して、1年2年3年と小刻みに生き残ってゆけるよう、皆様と共に頑張っている所存であります。どうか本日ご参集の皆様方の大きなご支援を引き続きいただけますよう、宜しく願い申し上げます。

以上簡単粗辞ではございますがわたくしの挨拶とさせていただきます。
ご静聴、誠にありがとうございました。

平成28年9月9日

文章作成責任者
株式会社 清川組
代表取締役 清川正明